

3段階評価 A：達成 B：一定の成果あり C：不十分

右の評価は A=3 B=2 C=1 で点数化

自己評価(総合)	B (2.1)	学校関係者評価(総合)	A (2.6)
----------	----------------	-------------	----------------

教育の方針		確かな知識・技術を身に付け心豊かで温もりのある医療人の育成するために、高い志と自主・自律の精神の下、協働と協調を基調とした教育を展開する。		
努力目標	自己評価	結果報告	外部評価	学校関係者(外部委員)からの意見・提言
1. 建学の精神をもとに医療福祉に有為な人材の育成を目指した誇り高い校風づくり	B	①建学の精神指導集を全教職員が手元に置いて、随所で建学の精神を根幹とした医療人育成の指導の展開に努めた。②本年度の学園努力目標及び学校と各学科の努力目標を毎月自己評価し、職員会議で集計を確認して翌月に繋げた。③担任制を活かして、学生一人一人に細やかな指導を展開し毎朝の学科内ミーティングで学生状況を常に確認・共有して、学校・学科の目標に沿う人材育成に努めた。	A	努力目標に対する取り組みについて、毎月教職員が振り返り評価を積み重ねたのはよい定点観測になっている。誇り高い校風づくりに向けて、建学の精神を据えて粘り強く取り組んでいる様子が窺えるので、努力を継続してほしい。自己評価・授業評価の尺度や学生のバイアス等がもう少し具体的になるとさらによいと思う。
2. 国家試験等の合格実績向上とそのための学習態度の確立	B	①看護及びPT養成学科においては、国家試験合格に向け年次的計画に従い実行した。1年生に対して毎日基本事項の課題を出して添削するなど、基礎基本の徹底を図った。②年度末の国家試験において目標の全員合格にはわずかに届かなかったが、看護は合格率 97%、理学療法は 88%の合格率を達成し、いずれも全国平均を上回った。③医療秘書学科2年生は入学以来の取得数が一人平均14となり、県内トップの実績を継続している。	A	国家試験合格率や各種検定の合格実績が、全国平均を上回る高い水準を保っており高く評価できる。各学科が学生の特性を捉えて、学年に応じて工夫や対策が講じられている。これまでの指導方法を継続しながらも、各検定とも 100%の達成を目指して学校教育を推進してもらいたい。
3. 全職員の協力による学生募集の推進	C	①3回実施したオープンキャンパスは、各学科輪番で実施計画を立て工夫した中身で重複参加者も飽きのこない内容で出来たが、2度も台風接近による影響を受け、それを想定した対応が必要である。 ②ガイダンス、出前講座、本校視察受入れ等多くの募集活動を展開して各職員が携わったが、本年度は職員対象の募集に関するスキルアップの場が少なかった。	B	前年度は学生募集の中核をなすオープンキャンパスが台風の影響を2度に亘って受け、募集に苦労した経験を次年度に活かしてほしい。少子化の中で学生募集は厳しいが、実績があるのでPRの工夫を一層強化してほしい。高専連携も積極的に推進してほしい。
4. 退学生の防止	B	①本年度はこれまでの教員の経験値に基づく指導に加え、専門業者の心理診断手法を取り入れ、科学的な指標を用いた。教員が裏づけを基に学生個々の特徴をつかんだ指導をすることに役立った。今後も継続していきたい。②毎週初めに運営委員ミーティングを実施して、退学予兆の確認および指導のあり方について協議を重ねた。③最終的には昨年比-3名であり、3年連続前年度比減。	B	学生一人一人の個性に応じたケアについて、教職員の熱意ある取り組みがなされていることが感じられる。心理診断手法を取り入れて、退学防止への一定の効果が認められる。その結果の一部を実習先に公開して、学校との相互連携に役立てられないか検討されてもよい。退学0を目指して、学生個々への対応を一層推進してほしい。
5. 個を生かす進路指導の推進	B	①1年次から定期及び随時に個別面談を実施して、進路希望を把握し、毎月の学科会で必要事項を科内で確認した。②求人情報は即時ファイルして、学生に情報提供した。③関連施設や卒業生を学校に招請して、就職ガイダンスや進路相談会、技術指導講習等を各学科で実施した。 ④本年度卒業生は、全学科就職内定率 100%を達成した。	A	毎年就職率100%を達成継続されており、申し分ない。医療秘書学科以外は近年県内就職率が減少傾向のようである。極端な職域を除けば県内求人多数あるので、事業所や地域との連携を深めるとともに学生個々への丁寧な進路指導を展開してほしい。
6. 地域連携強化の推進	A	①8月に西都市と本校の間で、地域発展に貢献する目的で「連携協定」を調印し、今後の連携・交流の深化に向け始動した。②11月に行った学園祭は、初めて校外に出て西都市中心市街商店街で、商工会と連携して実施し、多くの市民と交流できた。③校内組織である地域連携推進委員会を活性化させ、具体的な施策を積極的に打ち出す具体的な行動力が課題である。	A	西都市との連携協定もあり、西都市の行事・イベントに学校が積極的に参加・協力している実績がよく分かる。特に、学園祭を街なかで開催したことは、地域住民への学校に対する理解深化につながった。今後も継続して、一層の連携拡大を図ってもらいたい。
7. 経費節減と校納金完納の推進	A	①毎月の職員会議で水光熱・電話代の使用量と料金を前年比数値も提示して節減意識化を促進し全項目で前年比減を達成。②使用量の多い印刷機の紙使用量を毎週末に計測記録し、前年度同時期の量と比較しながら、随時職員へ情報提供した。③校納金は前期、後期とも完納であった。	A	職員一人一人が経費節減に対する意識を持って行動し、それが学生たちに浸透して、結果として成果の数値に表れている。今後も継続してほしい。

※「外部評価」は9名の委員の評価平均を四捨五入した結果の評価です。「学校関係者評価(総合)」は9名の「外部評価」7項目の平均を四捨五入した結果の評価です。